0歳児クラスにおける子ども―保育者間の「視線のやりとり」
―会話分析を用いて―

"Gaze interaction" between Children and a Nursery Teacher in 0-years-old Children's Nursery Room
―Using Conversation Analysis―

星野 優芽
Hoshino Yume

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 博士後期課程

キーワード：視線，保育，実践知
Key words：View point, Child care, Practical knowledge

１．研究目的

本研究の目的は，0 歳児クラスの子どもと保育者の視線のやりとりが，会話のような規則性を持つことを明らかにし，その上で，そのやりとりがどのように分類されるか，その類型化を行うことであった．

研究助成の申請時には日本保育学会第 74 回大会発表論文集に登録した内容（星野，2021）[1] からより発展させ，具体的な子ども―保育者間の「視線のやりとり」における類型化を行い，そのパターンを実証的に明らかにしようとしていた．

しかしながら，実際にはそうした具体的な保育者と子どもの「視線のやりとり」の詳細なパターンを探るまで至らなかった．その理由は，2 点ある．まず 1 点は，そもそもこうした保育者と子どものやりとりは，保育者の専門性の一部を成す「実践知」（金井・楠見，2012）[2] に含まれるということに気が付いたこと，2 点目は，保育者「実践知」としての「視線」を抽出するためには，そもそもどのような方法が適しているのかを検討することが先決であると考えたからである．

そこで今年度は，今後「視線のやりとり」の類型化ではなく，まずは保育場面における保育者と子どもの視線推移をこまやかに抽出する方法を勘案することとした．

２．研究実施内容

本研究では，当初の申請内容を念頭に置きながら，今後当初の目的を達成していくために，以下の内容について取り組んだ．

（1）実践知に関連する先行研究の検討
（2）収集済みのデータを用いた分析
（3）学会発表
（4）今後の分析に用いるためのデータ収集
①ビデオカメラによる保育場面の映像記録
②ウェアラブル型アイトラッカーTobii Pro グラス 2 による保育者の視線映像の記録
③ボイスレコーダーによる音声の記録

以下に，具体的な実施内容について順を追って記載していく．

（１）実践知に関連する先行研究の検討

「実践知」「実践的知識」「実践的思考様式」「熟達化」等について先行研究を収集し，検討を行った．以下に主な先行研究を挙げる．

ドナルド・ショーン（2001）[3]，ドナルド・A・ショーン（2019）[4]、佐藤（1990）[5]、波多野・稲垣（1983）[6]，砂上ほか（2009；2012）[7] [8]，中坪ほか（2010）[9]，佐藤ほか（1990）[10] マイケル・ポランニー（2003）[11] など

これらの先行研究を検討し，「実践知」の定義について検討した．そこから，保育における「実践知」は「学問的理論や知識の単なる適用ではない，個別具体的な状況で発揮され更新される実践者独自の暗黙の知識や思考，方略の総体」（砂上ほか，2012）と定義されること，またこの「実践知」という概念は「暗黙の知識」という側面と「思考，方略」という 2 つの側面から成り立つと解釈した．というのも，砂上ほか（2012）の定義では「実践知」というものは「実践者独自の暗黙の知識や思

考，方略の総体」とされているため，知識，思考，方略の 3 つを合わせて「実践知」であると読み取れるが，砂上ほか（2012）において今後の課題として「語りに表われた実践知」と「行為としての実践知」との差や関連を明らかにすることを挙げており，そこから，「実践知」は「行為：実践的知識」と「語り：実践的思考様式」の 2 つの側面から成り立つと読み取った．

その上で，波多野・稲垣（1983）の述べた「手続的知識」と「概念的知識」という知識の両面性を踏まえ，保育者が行っている行為を「手続的知識」，その行為を概念化し意味づける思考を「概念的知識」として捉えた．すると，これまでの「実践知」を明らかにする研究の多くが保育者の語りから明らかにしているということの理由が見えてきた．当の保育者さえも語ることのできない暗黙知（ポランニー，2003）としてもある「実践的知識」は，そもそも外部から取り出すことが困難である．そのために，これまでの「実践知」は保育者が自覚した上で語る思考から明らかにされてきたといえるだろう．

（２）収集済みのデータを用いた分析

上述したように，保育者の「行為における実践知」（実践的知識）を解明することが困難ななかで，筆者は保育者の視線を手がかりにして，その「実践的知識」を示す方法を勘案し，それによってどういった内容が「実践的知識」として表せるのか，検討した．

その方法とは，会話分析におけるトランスクリプトを援用した方法である．具体的には，ウェアラブル型アイトラッカーの映像を，Microsoft フォトを使用して 0.08 秒おきにトランスクリプトに書き起こすものである．それによって保育者の視線推移を詳細に示すことが可能となり，その方法を用いた結果，保育者の実践的知識として 3 点明らかにすることができた．

（３）学会発表

（2）における内容について，日本乳幼児教育学会第 31 回大会にて発表を行った．

（４）今後の分析に用いるためのデータ収集

冒頭に記載したとおり，星野（2021）の内容からより発展させて，会話における規則性を用いた「視線のやりとり」の類型化を行うことが助成金申請時の目的であったが，類型化までは行うことができなかった．そこで，今後「視線のやりとり」の類型化を行うため，今年度の 8 月にデータ収集を行った．ビデオカメラによる保育場面の映像記録と，ウェアラブル型アイトラッカーによる視線映像の記録，ボイスレコーダーによる音声の記録である．

３．まとめと今後の課題

本報告においては，申請当初の目的を明らかにするものではなく，その目的を今後達成していくための準備段階として，先行研究の検討やデータの分析，学会発表，新たなデータの収集を行うものであった．

今後は，当初の目的であった会話分析を用いた「視線のやりとり」の類型化を行うことと，保育者の「実践知」を解明するため，「実践的知識」だけでなく，「実践的思考様式」についても検討を行い，その両側面から「実践知」を捉えられるようにしていきたい．

４．この助成による発表論文等

①学会発表

［1］星野優芽，「0 歳児クラスにおける保育者の実践的知識　―視線に着目して―」，日本乳幼児教育学会第 31 回大会，2021 年 12 月 18 日，19 日，オンライン開催

引用・参考文献

1）星野優芽(2021)「0 歳児クラスにおける子ども―保育者間の視線　―会話分析を用いた実証的検討―」，『日本保育学会第 74 回発表論文集』，p.K-67-p.K-68.
2）金井壽宏・楠見孝編（2012）「実践知　エキスパートの知性」，有斐閣
3）ドナルド・ショーン（2001）『専門家の知恵』，佐藤学・秋田喜代美訳，ゆみる出版.
4）ドナルド・A・ショーン（2007）『省察的実践とは何か　―プロフェッショナルの行為と思考―』，柳沢昌一・三輪建二監訳，鳳書房.
5）佐藤学（1990）「現職教育の様式を見直す」，柴田義松・杉山明男・水越敏行・吉本均編著，『教育実践の研究』，図書文化，p.234-p.247.
6）波多野誼余夫・稲垣佳世子（1983）「文化と認知　―知識の伝達と構成をめぐって―」，坂元昂編，『現代基礎心理学 7 思考・知能・言語』，p.191-p.210.
7）砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・中坪史典・安見克夫(2012)「幼稚園の片付けにおける

実践知：戸外と室内の片付け場面に対する語りの比較」,『発達心理学研究』第23巻第3号, p.252-p.263.
8）砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・中坪史典・安見克夫（2009）「保育者の語りにみる実践知―「片付け場面」の映像に対する語りの内容分析―」,『保育学研究』. 第47巻第2号, p.70-p.81.
9）中坪史典・岡花祈一郎・古賀琢也（2010）幼児同士の協同遊びを育む保育者の実践的思考. 教育学研究ジャーナル, 第6号, p.31-p.39.
10）佐藤学・岩川直樹・秋田喜代美（1990）「教師の実践的思考様式に関する研究（1）―熟練教師と初任教師のモニタリングの比較を中心に―」,『東京大学教育学部紀要』, 第30巻, p.177-p.198.
11）マイケル・ポランニー（2003）『暗黙知の次元』. 高橋勇夫訳, ちくま学芸文庫